

「ぼ～れば～れ」通巻 419 号所載

かかりつけ医が大切

三郷の小さなつどい 2015 年 5 月 9 日（土）13：30～

みさと健和病院 北棟 1 階 会議室 参加者 25 名

クリニックふれあい早稲田の大場先生と、みさと健和団地診療所の宮本先生が参加されました。はじめに宮本先生から、内科で見ている人でも予約の日を忘れてたりして、おかしいと思う人が出て来る。認知症は普通の病気として、内科医が知識を持たないといけないと話されました。大場先生もかかりつけ医が大切とクリニックを始めたと話されました。

Nさんは、夫の暴力がひどく、おむつも変えられないし、デイサービスも断られ、圧迫骨折しても入院するには、付き添わないと困るといわれ、どうしてよいか分からないということです。大場先生からは、前頭側頭型で、薬が合わない場合、あるいは糖尿病低血糖症だと、不快感が強いので、そのせいかもしれない。主治医とよく話して原因を突き止めることが大切とアドバイスがありました。

Oさんは、夫は外に出るのが好きで、自転車でも3時間も遠出して、今のところは帰って来るが心配だ。でも、止めたら怒ると思って言えない。それに対して、大場先生からは、自動車も本人はなかなか止めたくないなので、困るけれど、基本的には75歳で止めるべきだと考えている、自転車も転んで自分が怪我をするだけでなく、相手があった場合はその人を加害者にしてしまうので、上手に止めさせる方法を考えたほうが良い、医師や信頼している人に話してもらうのがよいかもしれないと話されました。